

## 会 議 録

会 議 名	第 1 1 回市民協働に関する小金井市実態調査小委員会
事 務 局	市民部コミュニティ文化課文化推進係
開 催 日 時	平成 2 3 年 1 月 1 4 日 (金) 午前 1 0 時 0 2 分 ~ 1 1 時 5 0 分
開 催 場 所	前原暫定集会施設 C 会議室
出 席 委 員	山路憲夫小委員長 白井亨委員 川合彰委員 玉山京子委員
欠 席 委 員	今井啓一郎委員
事 務 局 員	<p>1 小金井市          コミュニティ文化課長 鈴木茂哉          コミュニティ文化課文化推進係長 山田耕太郎          コミュニティ文化課文化推進係主事 岩佐健一郎</p> <p>2 小金井市社会福祉協議会          小金井市市民協働支援センター準備室          市民協働推進員 加藤進          市民協働推進員 佐藤宮子</p>
傍 聴 の 可 否	㊦・一部不可・不可
傍 聴 者 数	2 人
会 議 次 第	<p>1 市民協働に関する小金井市実態調査報告書 (案) について</p> <p>2 その他</p>
会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 要 旨	別紙のとおり
提 出 書 類	1 市民協働に関する小金井市実態調査報告書 (案)
そ の 他	

## 会 議 結 果

- 1 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）について
  - (1) 第10回小委員会において指摘された修正部分の説明を行った。
  - (2) その後、報告書の文言についての検討を行い修正案を決定した。
  - (3) また、ヒアリング部分の報告について検討し、項目立て並びに追加削除の文言など修正を決定した。
  
- 2、その他
  - (1) 報告書を「第3回市民協働のあり方等検討委員会」でどう生かすかについて検討した。
    - (ア) 「市民協働のあり方等検討委員会」の本委員会のスケジュール等を事務局から説明し、それについての意見交換を行った。
    - (イ) 本委員会の委員とヒアリングを行った小委員会の委員とは、意識に相当の隔たりがあることが予想される。よって、1月21日の委員会において、小委員会委員から、報告書の中身に触れながら実感を生の声で語ってもらうことを確認した。
    - (ウ) 市民協働について、本年度行われている協働のワークショップも含め、他の手段等の活用や地域の受け皿等についての意見交換を行った。

## 会 議 要 旨

- 【小委員長】 次第の（１）「市民協働に関する小金井市実態調査報告書について」を議題とし、最終的な詰めをしたい。
- 【事務局】 （第１０回小委員会で指摘のあった部分の直し等について説明）
- 【小委員長】 まとめの部分について、先の事務局案を若干手直しさせていただいた。私見はあるが、全体で議論が充分尽くされていない点については、今回は載せずに今後の議論に託すという形にした。またせっかくこういう形でまとめたので、積極的に市民協働の手法を取り入れて市政の充実を図ってもらいたいということをつけ加えた。
- 【事務局】 前回、危機意識の欠如と評価システムについての意見があったが、前者はまとめの中に「従来の行政手法だけでは対応が困難になっている」という危機意識が浸透していない」ということで載せた。評価システムについては、答申の中で協働のルールとか仕組みについて加える内容だろうということの中で今回の報告書の中では触れなかった。
- 【委員】 市民協働を推進する、踏み出しやすくするには、なぜ進まないかという原因に危機意識の欠如があるということを書いた方がよいのではないか。
- 【事務局】 「主な原因は」の文言を入れる形にしましょうか。
- 【小委員長】 細かい字句の表現でもよいので、意見を出してほしい。
- 【委員】 「市民と市が協働し合って環境を整備することが望まれる」というところは、「整備することが必要である」という表現では強すぎるか。
- 【小委員長】 「必要であると考えられる」か「必要ではないか」としてはどうか。
- 【委員】 「必要ではないか」がいいと思う。
- 【小委員長】 最後のヒアリングの質問とやりとりのところについての意見はどうか。
- 【委員】 やりとりの内容がわかるところもあるが、意味がわからないところもあるので、課を記載した方がいいところもあると思う。
- 【小委員長】 個別の課の事業を検討しているわけではないので、議論の参考として見るという点では、課の名前を入れなくてもよいという感じもある。
- 【委員】 では、このままで。
- 【委員】 項目が離れていることで、内容がわかりにくいところもあるので、一連のところはまとめた方がいい。
- 【事務局】 ３５・３６はまとめる。
- 【小委員長】 これから本委員会で議論していくことになるが、調査結果をど

う生かしていくかという点について、ご意見をいただきたい。

【委員】 今後どういうふうに進めていくかのガイドみたいなものがあるのか。

【小委員長】 改めて事務局の方から説明いただけるか。

【事務局】 報告書の内容を書面だけで報告するだけでは不十分であろうということで、小委員会委員の皆様には、生の形でご意見をいろいろリアルに本委員会で伝えていただくのがよいと思う。

あと、今年度中の委員会の予定と、来年度の予定を報告する。予算の内示があったので、本委員会の回数、および契約などに関する小委員会と起草委員会、それとワークショップ2回などについては予算化できている。

【小委員長】 かなり多くなる。さしあたってこの調査結果は、中間的なものになるが、答申を待つ前に市に提出するのでよいのか。

【事務局】 全体の本委員会です承されれば、示していくことになる。

【委員】 多方面で、これをもんでいただくことになる。

【小委員長】 悩ましいのは市民協働センターのあり方の中身の話も盛り込んでいく、リンクさせていくのは相当いろいろ考えなくてはならない。本委員会では、調査などをするということは想定していないと思うが、そこまでの予算化についてはどうか。

【事務局】 先進事例をどう学んでいくかということは、専門家に来ていただくということで1回分の予算はある。今後は補正でやるなどの余地はある。事務局が視察に行つて学んだことや資料などは、大いに提供していく。

【小委員長】 あり方等については、いろいろ意見も出るし、答申もさまざまところで出されているが、それが生かされていない現実もある。市民協働のあり方の中身をきちんとしたうえで、センターをどんな形にすればいいかという順序になると思う。

【事務局】 先ほども触れたが、本委員会の委員さんと小委員会の委員さんには意識の隔たりがあると思われるので、報告書の中身に触れながら、ここについてはどう思っているかというコメントを含めて、21日の本委員会で話していただくとよい。

【委員】 気になったことは、職員だけでなく市民の意識もどうかという話もあった。一般市民に対しての取組みも答申の中にまとめていくということでよいのか。理想と現実のギャップはあるが、一人一人が意識をもって市のことに関わって生活していくというのは、ある意味このまちに住む満足度を高める一つになるんじゃないかと思う。理想論かもしれないが、そういう内容も、組み入れたい思いがある。

【委員】 どんな多様な人がいても、行政は組織なので、ある意味共有化で

きるが、市民は組織ではないので、意識をどうするかは大変難しい問題だと思う。だからこそそのんびりしたことを言わずに強力なビームを出さないと届かないという危機感が私にはある。市民側へのフォローは難しいと思う。

【小委員長】 NPO法人へのヒアリングとか、いろいろやっていかななくてはならないと思う。それが直接市民意識の啓発につながるわけではないが、その辺についてはどう考えているのか。

【事務局】 昨年度に、市民協働推進支援調査をやり報告書は出ている。

【小委員長】 それをやってもらっているなら、見直していかななくてはならない。

【委員】 例えば、今回小委員会がヒアリングした時の生の声を報告するのと同じように、昨年度行った調査で感じたことを生の声でお聞きしたい。

【事務局】 協働ワークショップで協働事業づくりをしているが、これは来年度まで続くので、こちらと連携した形で市民の方々の意見を聞くとか、何かできないかと思う。

【事務局】 一般市民への声かけ、情報発信ということについても踏み込んでいただいてもよいかと思う。

【委員】 ライフステージでの大きな出来事、子どもが生まれるとか子どもを育てる時とかは、地域でのつながりが広がる。

【小委員長】 そういう層にどうアプローチしていくか、団塊の世代も帰ってきているわけだから、どう地域に関わってもらうかも課題だ。

【委員】 受け皿側もどうアピールするか、楽しむ世界に引っ張りだすようにする。

【小委員長】 NPOなり市民団体がいろいろな活動をして、自分たちに合ったところを選ぶようなメニューができて、市民を引きつけることになるとよい。センターが中間支援施設となり、NPOを育てていろいろな人が出てくるのが望ましい。

【委員】 伝える手段というのはいろいろで、情報発信をしている個人は最近非常にすごく増えているので、行政が発信していただくだけではなく勝手連的に広がっていく部分もあると思う。行政がやっているというとなんとなくフィルターをかけてしまって見ないということもあるので、入り方を少し考えていくと変わるかもしれない。

【委員】 例えば市民が集ってやっていたことが、行政がちょっと支えてくれたことによって、いい知恵が集まったよというような親しみやすい事例があるといい。

【事務局】 事業をする時には、やはり個人じゃなくて受け皿としての組織がないと難しいのではないかと。制度がないと行政の方は全体が推進できない

ということもある。

【委員】 その辺のやり方や仕組みづくりを、検討委員会でどう提言していくかという話だ。受け皿をどうするのか、それを推進するために中間支援組織が要る、もしくは相談に行くセンター要るよねという話に近づいている。

【小委員長】 その道筋を、ある程度めどをつけようという話だ。

【委員】 その時にやはり契約事項の中にいろいろな問題がある。実際のものをうまくやるには、いい考えがありませんかというのが出てくればいい。

【委員】 やはり市民と行政が時として共通言語がなくなることもあるので、センターの通訳は必要だと思う。

【事務局】 組織の検討も含めて、答申の内容ではないかと思う。

【委員】 協働支援センターが、ある意味ハブになればいい。

【小委員長】 結論は出なかったが、まさしくこれから議論していかなくてはならない話がいろいろ出た。

(以上)

## 第11回市民協働に関する小金井市実態調査小委員会次第

- 1 日 時 平成23年1月14日（金）午前10時～正午
- 2 場 所 前原暫定集会施設C会議室
- 3 次 第
  - (1) 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）について
  - (2) その他
- 4 提出資料
  - (1) 市民協働に関する小金井市実態調査報告書（案）